

## ■6月18日

## スカイマーク、ボーイング737MAX導入

スカイマークは17日、ボーイング737-800の後継機として、ボーイング737MAXを導入すると発表した。日系エアラインで737MAXを導入するのは初めて。

ロイターによると、同社は、パリ航空ショーで少なくとも4機購入する合意を結んだことを明らかにした。今後数カ月で注文を確定させる。またボーイング737MAXの機体が最初に納入される時期には言及しなかった。

(スカイマーク)6/17

[http://www.skymark.jp/ja/company/press/130617\\_press.pdf](http://www.skymark.jp/ja/company/press/130617_press.pdf) (-> [http://www.skymark.jp/ja/company/press/130617\\_press.pdf](http://www.skymark.jp/ja/company/press/130617_press.pdf))

(ロイター)6/17

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE95G06I20130617> (->

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE95G06I20130617>)

## リンク、ATR72-600型、リース契約を締結

リージョナル・エアラインとして2013年度中に福岡を拠点に就航する予定のリンクは13日、リース会社のノルディック・エイベーション・キャピタルとATR 72-600のリース契約をしたと発表した。

契約した機材は3機で、2013年10月から順次導入される。

(リンク プレスリリース)6/13

<http://linkairs.jp/pdf/130613.pdf> (-> <http://linkairs.jp/pdf/130613.pdf>)

## 静岡空港、5月利用実績、搭乗率54.0%、搭乗者数3万7千人

静岡県はこのほど、富士山静岡空港の2013年5月利用状況を発表した。それによると、国内線の搭乗者数が引き続き好調で、札幌、福岡、沖縄線で前年同月を上回った。

搭乗率は前年同月に比べると8.1ポイント減54.0%。搭乗者数は3万7965人で、前年同月(3万5662人)より2303人増となり、今年3月以来の搭乗者数が3万7千人台を記録した

内訳は、国内線が搭乗者数2万2,680人(同1万8,951人)で搭乗率56.2%(同65.5%)、国際線が搭乗者数1万5,285人(同1万6,711人)で搭乗率51.1%(同58.7%)。

(日刊航空)6/17

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(産経ニュース)6/11

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/130611/szk13061102070000-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/130611/szk13061102070000-n1.htm>)

## 大韓航空、大分—仁川線、利用率前年割れ

大韓航空による大分—仁川線は、東日本大震災の影響で運休した後2011年12月末に再開したが、12年度の利用者数は運休前と比べ3割弱の減少し、利用者数は2万241人とどまった。本年度に入っても前年割れが続いている。

大分合同によると、昨秋以降、北朝鮮をめぐる情勢不安や円安基調への転換で韓国への旅行ムードが冷え込んだ。韓国人の利用も冷え込んだ。LCCの福岡—ソウル線が11年12月に就航するなど他空港との競争も激化している。大分県内の韓国人宿泊者数はウォン高効果もあり前年を上回って推移しており、大分線から他空港の韓国路線に利用がシフトしていることもうかがえる。

(大分合同新聞)6/17

[http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013\\_137143357766.html](http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137143357766.html) (-> [http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013\\_137143357766.html](http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137143357766.html))

## デルタ航空整備部門、国交省航空局認定事業場として認可

デルタ航空は、同社の整備部門であるデルタ・テックオプス(Delta TechOps)が、国交省航空局の認定事業場として認可されたと発表した。(国土交通省は、航空法第20条第2項に基づき、デルタ・テックオプスを第192認定事業場と認定)

デルタ・テックオプスは、整備、修理、オーバーホール(MRO)サービスを、同省の認可を受けた航空輸送事業者に提供することができるようになった。

今回の認定の対象は、日本の航空輸送事業者向けのタービンエンジン(CFM36-5BシリーズとCFM56-7Bシリーズ)と、ボーイング次世代737型機の装備品(機械計器、ジャイロ計器、電子機器、機械装備品、電気装備品、電子装備品、無線通信機器、その他航空機部品)が対象。

(日刊航空)6/17

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(デルタ航空 プレスリリース)6/14

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000097.000003358.html> (-> <http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000097.000003358.html>)

## ボーイング、ボーイング787-10、今週にもローンチする方針

ボーイングは今週、787型機(ドリームライナー)の大型版をローンチする方針だ。受注は最大100機となっている。複数の業界関係者が16日に明らかにした。パリ航空ショーで18日にも発表される見通し。ローンチカスタマーは5-6社とみられ、一部の受注は既存の別の需要分から振り替えられる可能性がある。

大型版「787-10」(座席数323)は、成長著しいアジア域内路線への就航などを目的に設計されており、正式価格は1機当たり約2億8000万-2億9000万ドルとみられ、他の787型機よりも約4000万ドル高い。2018-19年に就航する見通し。

(ロイター)6/17

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE95G03420130617> (->

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE95G03420130617>)

## エアバス、2015年までに利益率2倍の見通し

(ロイターによると)

エアバスのファブリス・ブレジエ最高経営責任者(CEO)は、同社が2015年までに利益率を2倍以上にする見通しであることを、ウォールストリート・ジャーナル(WSJ)紙に明かした。

同CEOによると、現地の生産責任者により多くの権限を与えることで効率化を図る。

新型機A350機を導入するコストを除けば、2015年までに営業利益率は10%に達すると確信している、と語った。

5月までの1年間でエアバスは247機を納入し、前年同期より約10%増となった。

(ロイター)6/17

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE95G05I20130617> (->

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE95G05I20130617>)

## エアアジア(LCC)系列、チューン・ホテルズ、日本へは3年めどに10軒展開

(NNA ASIAによると)

格安航空会社(LCC)エアアジア傘下のホテル運営会社 チューン・ホテルズは、3年以内に日本でホテルを10軒新設する計画だ。沖縄を皮切りに東京や大阪などの都心部で開業する見通し。

マーク・ランカスター最高経営責任者(CEO)が、17日開いたオーストラリア進出に関する記者会見後にNNAに対し明らかにした。

ランカスターCEOは、日本進出について「3年以内に6~10軒を展開する」と説明した。まず今年8月下旬~9月上旬に沖縄の那覇市中心部に最初のホテルを開業する。客室数は約120とし、宿泊価格については最終調整に入っている段階

だと説明した。同ホテルは音楽配信などを手掛けるフォンツ・ホールディングスと提携して展開する。

ランカスターCEOは「沖縄は観光資源が多く、日本という国を体験する上で貴重な場所」と説明した。その後の展開としては、エアアジアの長距離部門エアアジアXが就航している東京、大阪に進出することで協議に入っていると明らかにした。ランカスターCEOは「都市部に客室数約300の大型ホテルを展開していく」と述べた。

<http://news.nna.jp/free/news/20130618myr004A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130618myr004A.html>)

#### 東南アジア、LCCシェア拡大、4月には50%突破

東南アジア域内を結ぶ路線でのLCCのシェア(座席数ベース)は4月に50%を突破し、国営など既存の航空会社を上回った。LCC各社は首都・主要都市のほか、地方都市を結ぶ路線も拡大している。

日経によると、米国のデータサービス会社イノベータが英国系航空専門誌フライト・グローバルの協力で算出したデータによると、2013年4月時点の域内路線数は603で、比較できる04年4月の410から5割増えた。うちLCCのシェア(座席数ベース)は50.2%と、04年の14.3%から大きく伸びた。

特に、マレーシアが地盤のLCC最大手エアアジアは、タイ、インドネシア、フィリピンなどに路線を広げ、今年1~3月期の乗客数は978万人と前年同期比19%増。

また、フィリピンのセブ・パシフィック航空が国内の地盤を固め、12年までの6年連続で国内線利用者のシェア首位を維持。インドネシアのライオン航空も広い国土で利用者を増やし、タイでの合弁会社設立も計画している。

(日経)6/18

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO56313110X10C13A6FFE000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO56313110X10C13A6FFE000/>)

#### キャセイパシフィック航空、5月、旅客実績、旅客数、前年同月比0.8%減

キャセイパシフィック航空が17日発表した5月の旅客数と貨物取扱量はともに、前月に引き続き前年同月比で減少した。旅客数は0.8%減の233万8,703人、搭乗率は0.5ポイント上昇の79.0%だった。

貨物取扱量は1.5%減の12万1,529トンで、4カ月連続のマイナス成長となった。積載率は1.2ポイント下落の61.1%。(数値はいずれも100%子会社の香港ドラゴン航空を含む。)

(NNA ASIA)6/18

<http://news.nna.jp/free/news/20130618hkd005A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130618hkd005A.html>)

#### マレーシア航空、14年12月期、黒字転換予想

(産経bizによると)

国営マレーシア航空(MAS)のアフマド・ジャウハリ・ヤハヤ最高経営責任者(CEO)は、同社が目標としている2014年12月期の黒字転換を実現できるとの考えを明らかにした。同CEOによると、昨年11月に発表した株主割当発行による31億リンギット(約940億円)の増資計画には株主から強力な支援が得られているという。現地紙ビジネス・タイムズが報じた。

政府支援を受けて経営再建中の同社は、昨年7~9月期に6四半期連続の赤字から黒字転換を果たした。ジャウハリCEOは14年末までに政府支援を脱却し、予定している新機材導入に必要な資金の独自調達を目指すとしている。

10年から進める機体刷新計画の下、今年は新型旅客機24機を導入して老朽化した機体と置換する。同CEOによると新型機の導入で燃料効率が向上し、1座席当たり15~20%のコストを削減できる見通しだ。今年1~3月期の旅客数は310万人で前年同期比76.6%増と昨年同期の同73%増を上回る伸び幅となった。

(産経biz)6/18

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130618/bsk1306180503002-n1.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130618/bsk1306180503002-n1.htm>)